

住信為替ニュース

THE SUMITOMO TRUST & BANKING CO., LTD FX NEWS

第1648号 2002年08月05日(月)

《 crisis is spreading in South American countries 》

アメリカ経済もそうだが、その裏庭も揺れている。オニール米財務長官は今週ブラジル、ウルグアイ、そしてアルゼンチン歴訪を開始したが、いずれも経済危機の深刻化の最中にある。「この株価の下がっている時期に外遊とは」と議会から批判を浴びて先週南米歴訪を延期した同長官だが、実はいったん行くことを延期した南米も危機の最中であり、今週はこの南米諸国の危機を収束の方向に向けることができるか手腕が問われる。

最初の訪問国であるブラジルでの予定は詰まっている。日曜日にリオデジャネイロでマラン蔵相、ハネイロ中銀総裁と会談、翌日はブラジリアに飛んでカルドーソ大統領と会い、火曜日にはサンパウロでブラジルの経済界代表と話し合いを持つ。ブラジルが求めているのは、IMFの新たな融資。

オニール財務長官を迎えるブラジル側の雰囲気は、冷えたものだ。救世主を待つというにはほど遠い。同長官が先週、「南米諸国向けの資金は、スイスの銀行口座に回す」「ブラジルなど高債務国に対する救済策の有効性は疑問」などと述べたため。カルドーソ大統領は当初オニール財務長官との会談を拒否した経緯（その後撤回）があり、またこの財務長官発言を巡って駐ブラジル米大使を召還してその真意を尋ねた。

ブラジル側の怒りは、このオニール発言を「アメリカはブラジルを救済する意図がない」と市場が判断した結果、同国の通貨や国内債券が大幅に値下がりしたことに発している。ブラジルの通貨レアルは急落して8年ぶりの安値になり、同国の2500億ドルの対外債務（ほとんどドル建て）に関わる利払い不履行への懸念が高まった。オニール財務長官は自らの発言の影響が大きかったことから先週木曜日になって、「IMFによるブラジル支援を支持する。ブラジル政府の経済チームは素晴らしい仕事をしている」と発言。これがレアルの回復につながったが、ブラジル側のオニール不信は根強い。

オニール財務長官が次に向かうウルグアイの上院はこの日曜日に、銀行業に対する緊急法制を承認した。同国政府は預金者の預金引き下ろしの動きが数週間にわたって続いたことを受けて先週の火曜日に銀行を閉鎖した。上院が通過させた法律は、危機に直面する同国の銀行組織を立て直すためのもの。隣国アルゼンチンの経済危機の余波で、ウルグアイ経済は過去4年間にわたってリセッションの状況にある。同国に対しては、アメリカ、それにIMFが支援する見通しだが、アルゼンチンの状況が改善しない限り本格

的な回復は難しいと考えられている。

アメリカのウルグアイ支援に関しては、日本時間月曜日朝のニューヨーク・タイムズ（ネット版）に「米政府、ウルグアイに15億ドルの緊急融資を実施へ」という記事がある。この融資はIMF融資が下りるまでの「つなぎ」の形をとるといふ。期間はおそらく数日。この記事には、「経済危機に直面している国を直接支援するのは、ブッシュ政権になって初めて」という記事がある。それほどウルグアイの経済危機が深刻化しているということだろう。

その後オニール財務長官はアルゼンチンに向かい、水曜日にはワシントンに戻る予定だが、この一連の南米歴訪の結果やその後の南米各国市場の動向は、今後のアメリカ経済やドルの行方にも影響するとみられる。アルゼンチンに加えて、南米の雄ブラジルの危機深刻化は、アメリカ経済回復の足枷になるからだ。

オニール財務長官は、北米大陸で内憂外患に直面しているといえる。

《 anemic recovery 》

そのアメリカ経済に関しては、ブッシュ政権が想定しているような力強い回復が容易でないことを示す統計がいくつか出た。

1. 米4-6のGDP速報値は、大方のエコノミストの予想の半分（1.1%のアップ）になった。加えて、第一・四半期の伸び率は6.1%のプラスから1%ポイントも引き下げられて5.0%になった。
2. また、これまで一・四半期しかマイナス成長（第三・四半期）がなくて、従来の考え方ではリセッション（定義は二・四半期連続のマイナス成長）ではなかったとされた昨年のアメリカの経済成長に関して、一気に第一から第三までの三・四半期がマイナスだったと大幅に下方修正が行われた
3. 第二・四半期のGDP統計の中身を見ても、GDPの7割弱を占める消費は前期比1.9%増で1-3月期の3.1%増から低下し、今までの米経済成長の原動力に息切れの兆しが見える。住宅投資も5.0%の伸びにとどまって、前期の14.2%増から鈍化した
4. 景気に対する消費者の信頼感も低下している。ミシガン大学の調査に加えて、先週はコンファランス・ボードの調査も出たが、これも大幅に低下している。6月は97.1（1985年=100）と、5月の106.3から大幅に低下。今後に関しても、ページブックはいくつかの地区連銀で株価下落が消費者心理の低下を通じて实体经济に影響を与える懸念が出てきていると報告した
5. 週末に発表された米失業率は5.9%で横ばいだったが、非農業部門就業者数の伸びはわずかに6000人とどまった。これを受けて、経済の先行指標である株価は、大きく下げた。その他の経済指標でも、経済の鈍化を示すものが多い。

6月の工場受注は2.4%の減少。

むしろ明るい統計もある。6月の個人消費支出は0.5%増加したし、個人所得は同月に0.6%増加した。また、4-6月の米GDP統計がエコノミストの予想を大きく外した背景は、24%にも及ぶ輸入の急増が背景という説もある。あるエコノミストは、「この輸入急増は港湾労働者のストを警戒して、輸入業者が早めに輸入をしたため」とコメント。

先週出た各種の経済指標と株価の動きは、アメリカ経済が「double dip」(二番底)の危険性を強く抱えていることを示している。設備投資は回復してきているが、依然としてマイナス幅を縮小している過程にある。消費に対する期待が強いし、事実いくつかの指標では強さを維持している。しかし懸念に足る材料はいくつもある。

週末のウォール・ストリート・ジャーナルには、「High-End Home Demand Dips In Markets That Once Sizzled」という記事があって、アメリカの高級住宅市場で起きている異変を報じている。異変とは、住宅価格の低下、売り物の増加など。このところの数回のレポートでも書いたが、一般的には株価よりも住宅価格の変動の方が消費者の消費行動に及ぼす影響は大きいとされる。今後の注目点である。

今週の主な予定は以下の通り。

- | | |
|---------|---|
| 8月5日(月) | 6月景気動向指数(14:00)
住民基本台帳ネットワーク稼働
マクドナルドがハンバーガーを59円に値下げ
米7月ISM非製造業景気指数(23:00)
米オニール財務長官が南米訪問(~7日) |
| 8月7日(水) | 7月消費動向調査(13:30)
「首相公選制を考える懇談会」最終報告
米7月輸出入物価(21:30)
米6月卸売在庫(23:00)
米6月消費者信用残高(8日4:00) |
| 8月8日(木) | 7月マネーサプライ・卸売物価(8:50)
6月機械受注(14:00)
7月景気ウォッチャー調査(16:00)
日銀金融政策決定会合(~9日)
米7月卸売物価(21:30)
米7月小売主要既存店売上 |
| 8月9日(金) | 4-6月法人企業調査(14:00)
米4-6月労働生産性(21:30) |

《 have a nice week 》

相変わらず暑い。まあ週末の暑さは、週中のそれとはラフで着ているものが違いますから、楽ですが。週末は相変わらず、諏訪にいました。しかし、ちっとも日中は涼しくなかった。朝晩は涼しいのですが。焦ったのは夏休みでさすがに列車の席が一杯だったこと。予約していなかったので、席を求めてうろろう。やっと自由席の最後の車両に見つけた。

助かったのは、臨時が数本あったこと。油断していたんですよ。いつもの通りだろうと。しかし、夏休みはやはり人出が多い。7時のあずさの次に7時02分があって、そのあとに7時16分という二本の臨時。しかし、どの列車も指定席は一杯そうでした。これからしばらく夏の間は思わぬ電車が混む。気をつけないと。

これは私のサイト (<http://www.ycaster.com>) にも書いたのですが、日曜日の深夜まであったフジテレビのEZ!TVで一番おもしろかった数字は、プロ野球での投手と打者の関係を示すものです。このニュースの読者にも野球ファンは多いでしょうから紹介しましょう。

それはオリックスの山口投手が158キロ(日本最速)を出したことに関連した分析。

158キロの速球が投手の手を離れてキャッチャーに届くまでの時間 = 0.39秒
対して、バッターが瞬間的にコースなどを見極め、「打て」と脳が指令を出してから体が動き出すまでの時間 = 0.25秒

そして、そこからバッターがボールを捉えるまでにかかる時間(スイング・スピード)は松井でさえ = 0.17秒

との合計は0.42秒。 と比べると、0.03秒長い。ということは、普通の判断、加えて最速のスイングをしたのでは、158キロという日本最速の球を打つことは出来ない、ということです。しかし、たとえばバンドスタンスなどで構えたり、とにかく当たるスイングをすると当たったりするし、それこそ出会い頭の良いあたりはあるらしい。

同じ球でもいろいろ種類があるらしいのです。番組途中のビデオが流れている間に解説者の谷沢さんと話していたら、彼は実際に対戦した印象として

「江川は球が上がってきた」

「津田はズドンという感じ」

と語っていた。回転が同じスピードの球にも、球質の違いをもたらすらしい。えっと、

私は神宮のバッティング・センターで軟球でしたが140キロのボールに20球くらい挑戦して、実に見事に一球も当たらなかった。浮いてくる(ように見える)球など、打てない。それでも、アメリカでは160キロを超える球を打つバッターがいる。反応に要する時間の要素だけではないんでしょうね。

それでは皆さんには、良い一週間を。来週については今度は確定でお休みします。

《当「ニュース」は、住信基礎研究所主席研究員の伊藤(03-5410-7657 E-mail ycaster@gol.com)が作成したものです。許可なき複製、転送、引用はご遠慮下さい。また内容は表記日時に作成された当面の分析・見通しで一つの見方を示したものであり、売買を推奨するものではありません。最終的な判断は、御自身で下されますようお願い申し上げます》